令和2年度　大田区立大森第六中学校　自己評価　報告書

令和3年3月9日

○　本校の概要

本校は昭和22年に開校し、私鉄の4駅に囲まれた交通至便な住宅街にあり、現在は11学級、全校生徒363名の中学校である。敷地は風致地区内にあり、自然に溢れ、4月には校庭も一面桜の花で覆われる。昨年度にオープンした勝海舟記念館とともに、隣接して区民の憩いの場である周囲を15分ほどで歩ける風光明媚な洗足池があり、運動会の長距離走ではここがコースとなっている。生徒たちはこの池にホタルを自生させる活動に取り組み、毎年その風情を地域の方から喜ばれている。また、落ち葉を集めて作ったミミズコンポスト、夏の陽射しをさえぎるゴーヤのグリーンカーテン、さらに近隣の大岡山駅の駅前花壇作り等も行っている。教育目標は○気品のある生徒の育成　○実力のある生徒の育成　○健康の優れた生徒の育成の3つを揚げている。教育活動は、2011年にユネスコスクールに加盟し、地域を「屋根のない学校」として捉え、地域の人々と共に、地域のために、環境を保全する環境教育や、災害に立ち向かう場所としての防災教育を中心に、国際理解・交流教育、地域連携教育、人権・人命尊重・平和教育を行い、生徒の自己有用感、自己肯定感を育んでいる。自分の育った地域に愛着を持ち、郷土愛を育み、将来の日本、世界の様々な課題を考え解決して、心豊かに生きていく基盤となる教育実践を行うことで、SDGsを到達目標としながら、20年・30年後の持続可能な社会の担い手を育てる持続発展教育(ESD)を推進している。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:生徒学校評価アンケートの該当する項目(9～15,18～21)が90%以上	4:	3	大田区アクションプラン1「未来社会を創造的に生きる子供の育成」に対する成果評価は「3」(達成率86.2%)であったが、本校の教育の柱でもある「ESDの推進」に対して生徒は、学校評価アンケートの中で、「大森第六中学校は、特色ある教育活動を行っていると思う。」(達成率98.8%)、「大森第六中学校に入学してよかったと思う。」(達成率96.2%)、「学校生活は楽しい。」(達成率92.4%)と理解を示しており、「思考力」「コミュニケーション力」「判断力」の成長も肌で感じ取っているのではないかと思われる。今回、アクションプラン1の達成率が3.8%上がりきらなかった原因は、達成率74.9%の「家庭で宿題、予習・復習をしっかりしている。」(昨年度の達成率71.9%)と達成率76.2%の「私は、定期考査に向けて、計画的に熱心に取り組んでいる。」(昨年度達成率77.3%)の2項目にあったが、これらは新型コロナウイルス流行による、自粛期間が長かったことも、原因の一つであると考えられるので、来年度の取組評価が「4」に上昇する可能性は十分にある。	A	14	・「学校生活が楽しい」が92.4%はとても素晴らしい結果だ。 ・評価は4でいいと思った。 ・自分の学校を「入学してよかった」「楽しい」と言えることはとても素晴らしい。 ・休校中、友達や先生方と顔を合わせることができなかったため、オンライン、リモート等で学活や連絡等のやり取りができたらよいと感じた。双方向型のタブレット機器等の活用を期待している。 ・コロナ禍の影響は多大だが、その中でも六中の特色ある授業は熱心に行われていると評価している。 ・先生と間近で対面し、仲間と共に考え、話し合い、学び育つ授業は大切です。長い自粛期間、コロナ禍で取り組まれた貴重な経験を今後も変化する状況に活かして、生徒の皆さんは六中生活を楽しんでほしい。さらに社会に貢献する大人に育つよう指導を望む。 ・各教科それぞれ独自の方法でICT機器を活用して授業をしていた。生徒の創造力が育つのが楽しみだ。 ・コロナで地域行事や活躍できるボランティア活動も少なかった中、可能な限り生徒も学校も努力していたと思う。 ・生徒がより進んで学習に取り組む姿が見られるようになるとよい。 ・今後の取り組みで「4」に上昇してほしい。 ・地球規模で未来を見つめ、学校全体で取り組みを重ねてきている。それが子どもたちの自信にもなっていると感じる。 ・コロナ禍の中、教育活動への理解と協力が各家庭において見られる。 ・「持続可能な社会の担い手の育成」を掲げたESD教育を一早く取り入れた六中の教育の成果が毎年表れていると思う。 ・評価は適切です。 ・コロナ禍になりながら、「大森第六中学校に入学してよかったと思う」の達成率が96.2%というのは、先生方の生徒との向き合い方が非常に良いのであると思う。 ・改善策にある"予習・復習…"や"定期考査に向け…"については、生徒も保護者も共通して達成率が良くない。これは元々宿題が少ないといううわさも耳にするので、それが影響しているのではないかと感じた。ただ、11月よりも1月のアンケートの数値が上がっているので安心した。 ・今年度は新型コロナの流行対策もあり、新しいコミュニケーション力や判断力などが身についてきたのではないかと思った。ESDの推進はぜひ進めていってほしい。 ・基礎学力の定着は永遠の課題であり、何かイベントと合わせて流れで勉強する子ども活動などを考えてみても良いのではないか。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:生徒学校評価アンケートの該当する項目(9～15,18～21)が80%以上	3:			B	1	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4					C	1	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	2:生徒学校評価アンケートの該当する項目(9～15,18～21)が60%以上	2:			D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:生徒学校評価アンケートの該当する項目(9～15,18～21)が60%未満	1:					
		すべての教科で「主体的、対話的で深い学び」に取り組み、「思考力」「コミュニケーション力」「判断力」を育成するためのESDを推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が90%以上	4:	4	今年度も定期考査1週間前の部活動停止期間に「青竹クラブ」(5教科の補充授業を1日1教科で5日間実施)を実施してきた。その成果もあり成果指標達成率は92.21%(昨年度は93.57%)と概ね良好な状況であった。今年度も例年に比べ学習補助員の人数が少なく、水曜日の職員会議中に実施することが困難であったりして「青竹クラブ」の実施日数を十分に確保できなかったが、専任の教師が時間を延長して、1日に2科目実施(終了が18:00になることもあった。)するなどの工夫により、生徒の要望に応えていくことはできた。(生徒の「定期考査前の学習は十分に時間を取って取り組んでいる。」の成果指標も82.0%と頑張っている。)また、土曜補習は年6回実施することができたので、定期考査前の実施も可能になり、参加率上がったことは良かった。来年度もいろいろな工夫を重ねて個別指導をより充実させていきたい。	A	16	・コロナ禍においても工夫しながら「青竹クラブ」を実施し、個別指導の機会を最大限確保したことは学力向上につながったと思う。 ・青竹クラブの参加率が上がったことは、先生方の熱意ある取組の成果であり、学力の定着につながっているので評価している。 ・補習授業は専任の先生にも協力していただきありがたい。今後も青竹クラブの継続をお願いしたい。 ・土曜補習教室も回を重ねる毎に参加生徒が増え、最後の回は無遅刻、無欠席だった。生徒の学習意欲が高まっているのだと思う。 ・学力向上に関して、学校がしっかり取り組んでいることが伝わった。 ・皆さんの意欲を感じる。 ・教職員の熱心な取組が成果となり、数字に表れている。 ・生徒一人ひとりへのアプローチを大切に、丁寧に指導している印象。今後もこうした指導を継続してほしい。 ・学習補助員数が足りないにもかかわらず、その中で時間等工夫して態勢を整えて実施することができたことは評価したい。土曜青竹クラブも参加率が特に1年生で著しく上がり、来年度以降にも期待したい。 ・評価は適切です。 ・学力の向上を目的に具体的な取組(青竹クラブ)を行っており、それによる成果も見られている。今後も引き続き、充実させていけるとよいと思う。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	4	3:生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が80%以上	3:			B	0	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	2:生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が60%以上	2:			C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が60%未満	1:			D	0	
		基礎学力の定着を目指し、定期考査前に、専任教員と学習補助員が協力して、国語・社会・数学・理科・英語の五教科の補充授業実施する。	4:毎回五教科すべて実施した。 3:80%以上の実施率であった。 2:60%以上の実施率であった。 1:60%未満の実施率であった。	4							
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:生徒学校評価アンケートの該当する項目(1～8)、生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が90%以上	4:	4	これまでの11年間、SDGs達成にむけて、ESDの活動をより活性化させ、「主体的・対話的で深い学び」の実践を積み上げてきた結果、成果指標達成率が92.97%と充分満足できる達成率になった。しかし、その中で「自分にはよいところがある。」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」という自己肯定感を問う設問の達成率が75.50%(昨年も79.50%、一昨年は79.05%)と僅かではあるが下降してしまった。この原因は、やはり新型コロナウイルス流行の影響で、様々な行事やボランティア活動が中止になってしまい、生徒の活動がかなり制限されてしまったことにあると思われる。客観的に見ても六中の生徒は、このコロナ騒動の中においても、たいへん落ち着いて我慢しながら頑張って活動していた。今後も具体的な数値目標であるSDGsを有効に活用し、大森六中の学校全体としての取り組みや、生徒一人一人の活動や学習、そして今の我慢がどれくらい世界に貢献していけるかを気付かせていきたい。さらに、昨年度は「学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等をのための取り組みを実施する」の項目の取組評価を4と評価したが、今年度は3にもどしてしまった。国内外からの要人の来校などは少ない1年間であったが、コロナ対策の中で、「もっと、生徒と深いコミュニケーションをとる時間を作っていこう。」という気持ちを実践できなかった表れであると思われる。来年度もどのような状況になるかわからないが、「生徒は学校の宝である」ことを忘れずに、日常の教育活動をより丁寧に取り組んでいきたい。	A	14	・新型コロナウイルスの影響が影を落とす中でも、先生方が生徒の気持ちを考えてできる限りのことをしようとしていたことが伝わってくる。数値については、今年度の特例的な結果と考えてよいのでは。 ・道徳授業地区公開講座の参観時、どのクラスでも生徒が自分の考えをしっかりと発言する姿が見られ、生徒の心が育っていることを実感できた。 ・先生方の「生徒は学校の宝である」との気持ちは、とても嬉しいことだ。その気持ちが生徒一人一人の活動や学習につながっていると思う。 ・学校活動にも制限があり、行事などでクラスが一つにまとまっていくことを実感する機会が例年より少ないことは子供達にとってはダメージだったと思う。それでも心は通じ合っていると信じ、活動してきたことは素晴らしい。改めてESD、SDGsの学びを通して自分自身と向き合い、危機感を覚えた1年だと思う。 ・洗足池のホタル復活プロジェクト・中越木プレート設置、大岡山駅前花壇整備等、出来る活動を地道に頑張っていることは嬉しく思う。 ・地域の豊かな自然と関わり、自然環境を守り育てて社会に貢献している六中生を頼もしく感じ、応援している。 ・道徳教育に関しては、授業の研修の取り組みと共に、教職員の日々の姿を見せて教えていただくことで生徒たちの道徳心が育つとよいです。 ・電子機器への依存は問題となっており、一人1台のタブレットはオンライン学習には有効な反面、心身への悪影響や、気づかずに依存症になる可能性も広がっているため、生徒・保護者へ使い方を指導の上、有効活用してほしい。とくに不登校のネット依存症は危険なので、出来るだけ健全なうちに啓発教育を行うなど、未然に防ぐ対策が必要ではないか。 ・生徒と一緒に校則、標準服の見直しを考えるなど「自分で考えて決める」力を培っていると思う。「世界のトピックス」の取組を始めて長くなるが、新聞やテレビでニュースに関心を持つ良いきっかけになっていると思う。 ・ESDの活動を通して豊かな心が育っていることがよく分かった。 ・SDGsの先駆けの行動をしてきたことに敬意を払います。 ・今年度の制約の多い中でも、出来ることを通さずに子どもたちの豊かな心の育成に取り組んでいることがわかった。 ・今年度はコロナ対策もあり、活動が制限され、生徒の精神面でのケアへの苦労が伺える。 ・いじめや不登校問題等、さまざまな課題に積極的に取り組んでいることを地域教育連絡協議会等の機会を通じて感じている。 ・設問19「私は、地域行事やボランティアに積極的に参加している。」の評価が低いのは、コロナ禍の状況下では仕方ないことです。だからと言って生徒たちのボランティアの意欲に変化があったとは言えない。自己肯定感の達成率に急激な変化が見られないのは生徒に内在する意欲が落ちていないと言っていい。SDGsの有効活用による世界に貢献できる人材の育成を続けていってほしい。 ・コロナ禍で豊かな心の育成はなかなか難しかったと思う。 ・評価は適切です。 ・コロナの影響で行事やボランティアが中止になり残念だった。SDGs達成に向けた取り組みは、いつも関心を持って見させてもらっている。今後もどのような取組をしていくか期待している。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3:生徒学校評価アンケートの該当する項目(1～8)、生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が80%以上	3:			B	2	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:生徒学校評価アンケートの該当する項目(1～8)、生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が60%以上	2:			D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対しあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	1:生徒学校評価アンケートの該当する項目(1～8)、生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が60%未満	1:					
		人と人、人と自然のつながりを体験させりために、ボランティア活動に対する生徒の意欲を高めさせ、積極的に参加させる。	4:ボランティア活動を月1回以上実施した。 3:ボランティア活動を学期に1回以上実施した。 2:ボランティア活動を年1回以上実施した。 1:実施しなかった。	3							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4:生徒学校評価アンケートの該当する項目(16・17,22～25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が90%以上	4:	3	成果指標達成率は82.31%であり、昨年度(89.63%)より7.32ポイント下降した数値になったが概ね良好であった。それでも、「学校の施設・設備は十分に整っている。」(達成率66.9%)という設問の達成率は相変わらず低調であった。校舎そのものの老朽化は事実であり、どうにもならないことであるが、大田区の28中学校の中でも自然の豊かさや地域の方々の温かさは1番であることを生徒も十分に理解していると思う。また、「給食は工夫されていて、おいしい。」(達成率65.9%→73.6%)という設問の成果指標は上昇して来ている。これは、保健給食委員会で取り組んでいるフードロスプロジェクトなどの成果の現れであり、今後は生徒自身が持続発展のために一番大切なものが物質的なものを追いかけるのではなく、自らの心に栄養を与えることであることにも気付いてくれることに期待したい。また、「学校の授業(体育)での取り組みで基礎体力が向上した。」の達成率が年々上昇してきている(79.2%→82.3%)のは、体育科の指導が確実に定着してきている証であると考える。	A	11	・「学校の授業(体育)での取り組みで基礎体力が向上した」と感じている生徒の増加は、教師が学習目標を明確にした授業を積み重ねてきた成果だと思う。 ・筋力、体幹トレーニングを確実に行い、生徒たちも実感していることを評価している。 ・食育に力を入れ、給食を美味しく食べられることは幸せで、食物の背景や給食に携わっている方々にも思いを寄せ、感謝できる心を育んでほしい。 ・朝食をしっかりと摂っている生徒が90%を超えているのは、日頃の食育の成果だと思う。 ・学校の設備の老朽化はありますが、世の中が便利になっていく中で、不便な部分も工夫で補うという力をつけていると思う。 ・施設、設備そのものに関する評価は外してもよいのではないか。 ・運動の成果を出すのは大変な年になりました。工夫をすることに意義があると感じる。 ・来年度はのびのびとみんなで活動できるとよいですね。 ・食育は一番大切なことと考える。今後の取組に期待する。 ・コロナ禍でさまざまな制約がある中で、体育の授業や体育行事、部活動等を実施していく苦労を推察する。体力の向上は中学生の成長期にとくに重要なことと考える。今後も制約のある中でも取り組みを進めてほしい。 ・世界的な食糧危機が叫ばれる中で、フードロスプロジェクトを積極的に行っていることに注目したい。中学生時代から取り組むことに大いなる意義がある。 ・工夫した給食を食べられる生徒たちは幸せだ。来年度も食と体育指導の向上に取り組んでほしい。 ・評価は適切です。 ・授業での取り組みにより、基礎体力が年々上昇していることはとても素晴らしいことだ。老朽化はある程度仕方がないと思う。 ・保護者アンケートの18「子どもは、悩みや相談を先生に気軽にもっかけられるようだ」の数値が低めだが、学校は生徒の相談によく乗っていることをもっと知ってもらう方がよいと感じた。 ・「学校の施設・設備」に関しては、老朽化だけが問題なのではないと感じる。何が十分でないかを整理してこれから必要なことを一緒に考え職員が共に生徒と一緒に考えていくことを望む。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	3:生徒学校評価アンケートの該当する項目(16・17,22～25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が80%以上	3:			B	4	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	2:生徒学校評価アンケートの該当する項目(16・17,22～25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が60%以上	2:			C	0	
		体育の授業中において、筋肉・体幹等のトレーニングを行う。	4:90%以上行っている。 3:80%以上行っている。 2:50%以上行っている。 1:50%未満であった。	4	1:生徒学校評価アンケートの該当する項目(16・17,22～25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が60%未満	1:			D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が90%以上	4:	4	これまでの11年間のESD、SDGsの研究や実践の成果、また昨年度より新たに、国立教育政策研究所の研究校に指定され、「SDGsの達成に向けた学校教育の取組～カリキュラムマネジメントの工夫と主体的・対話的で深い学びの実践～」をテーマにした研究の1年目の取り組みの成果もあって、成果指標達成率は90.6%と概ね満足いく数値であった。(昨年度は92.71%)特に、SDGsを念頭においたクロスカリキュラムの作成と実践、主体的・対話的で深い学びの授業への導入に関しては教員側の成果評価も高い評価を示している。ICTの活用に関しても、昨年度、すべて普通教室にも電子黒板が入り教師用タブレットも一人1台導入され、また今年度より特別教室にも電子黒板が入り、レンタル用の生徒用のタブレットも40台から100台に増大されたことから活用率も急激に高まっている。今年度は新型コロナウイルスの影響で国研の研究発表がオンライン開催になってしまったが、来年度も機会を作っては、「大森六中の普段通りの姿」を皆様にお見せしたいと考えている。SDGs達成へのビジョンは六中の永遠の課題として描き続けていきたいと考えている。	A	14	・国の研究機関からも認められ、今年度、全国に向けて発表されたSDGsについての先進的な取組は大変素晴らしく、小学校段階からでも、できることを考えつつ連携を図っていきたいと思う。 ・生徒による授業評価の結果がどれも高く、先生方の指導力の高さが表れていると思う。 ・生徒の力をつけるために研究をしている六中。先生方の教科をこえてチーム作りをされ、共通の研究で有意義な授業をしていることにとても感銘した。 ・生徒へのアンケートで「入学して良かった」「授業は分かりやすくて丁寧である」「学校生活は楽しい」等々、90%以上が高評価であることは素晴らしい。当てはまらない少数の生徒の心のサインも受け止めてほしい。 ・クロスカリキュラムの実践によって、生徒も教科の間につながりがあることを知り、学びに対する意欲が増すと思います。とても素晴らしい取組だと思う。 ・学校が生徒のもつ力を伸ばそうと努力している姿がわかった。 ・今年は学校に足を運ぶことができなかった。SDGs達成は六中を離れてからも続けてほしい。私も見習いたい。 ・六中がいち早く「SDGs」を取り入れたことは素晴らしいと思う。「17の目標」課題を授業へ導入し、生徒一人一人が理解をして身につつのは遠い日ではないと思う。教職員の熱意に感謝です。 ・研究発表会や各種研修等の機会がこれまで通りに設けられない中、先生方が試行錯誤、工夫を積み重ねながら授業を進めていると感じる。 ・新たな各種教育機器の導入により、一層の教育の充実を期待する。 ・リモートでの生徒の発表は、しっかりとしていて良かった。来年度も六中の独自のカリキュラムと工夫に期待する。 ・評価は適切です。 ・SDGsの達成に向けた学校教育の取組は私自身毎回聞くことで学んでいる。子どもたちにとっても有意義な取組だと思う。主体的、対話的で深い学びの実践の場として環境が整っている。 ・六中の場合、在職期間の長い先生が多く、SDGsの意義を理解し実践でき、生徒もとても恵まれていると感じる。今後一時的にはタブレットの導入などで大変な状況が出てくるかもしれないが、世界にESD、SDGs実践の成果を発表していく学校として、ますます発展を期待している。 ・今後生徒の多様性への対応でESD、SDGsでの研究も増えるかもしれない。いずれにせよ、先生方の取組はいつも素晴らしいと思っている。 ・新しい日常としてオンラインも悪くないが、生徒へのサポートも必要になるので、どうやって行くか気になる。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が80%以上	3:			B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が60%以上	2:			C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		全教職員でSDG's カレンダーを検討し、授業改善に取り組む。SDGsを念頭においた学校行事に取り組む。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が60%未満	1:			D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となって教育に進める	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:保護者学校評価アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が90%以上	4:	3	成果指標達成率は82.6%(昨年は85.48%)と概ね満足いく数値であったといえる。新型コロナウイルスの流行で学校防災訓練はできなかったが、まちなか点検などの防災関係の行事を始め、新入生の募集(児童・保護者共)から美化活動にいたるまで、地域や保護者の皆様に多大なるご支援を頂いた。ただ、保護者の皆様からのアンケートの回答から「学校の施設・設備は整っている。」の項目の成果指標が55.9%(昨年は60.1%)と昨年度に引き続き、極端に低かったのが残念であった。「体力向上と健康の増進」の項目でも考察したが、施設の老朽化はどうにもならない。ただ、今年度は校舎内の消毒活動はどの学校よりの念入りに実施してきたつもりである。ただ、ご意見を真摯に受け止め、SDGs達成のために地球全体の環境問題を考える大森六中が、足元である学校美化活動や消毒衛生活動、そしてICT環境の充実についても、もう一度見直し、古くても「安全・安心」をモットーに、学習活動の環境は「NO．1」になれるような学校を作っていくための良い機会にしたい。そのために、「地域に愛される学校」として保護者の皆様や地域の方々から理解を得られるための努力を惜しまずに行っていきたい。	A	11	・今年度の学校ホームページから、コロナ対策で仕事量が増える中でも、家庭や地域との連携を重視し情報発信の充実を図るべく尽力していたことが伝わってくる。 ・評価は4でもいいと思いました。 ・生徒、先生方の地域に対する思い、学校美化活動はとても熱心にされていると思う。消毒活動も忙しい中、一生懸命していて感謝です。 ・施設の老朽化は仕方ない。学校は整備、美化活動に取り組んでいると思う。掲示物もきれいに貼られて見やすい。 ・生徒の生活アンケートから「自分にはよいところがあると思う」の解答が77.1%は意外に低いと感じた。学校・家庭・地域それぞれが子供の良いところを認める意識での声掛けが生徒の力になり、生徒同士も互いの良いところを認め合う心を育ててほしい。 ・今年度は関わる機会が少なかったが、地域の大人として関われる機会を大切にしたい。 ・地域の方によるボランティア活動の提供、卒業生・卒業生の保護者・地域の方々による継続的なボランティア等、地域が「屋根のない学校」としていい形になっていると思う。コロナのため、地域の方々との交流の機会が減っているが、つながりが途切れないよう、これからも交流・情報伝達をお願いしたい。 ・学校が家庭、地域と一体となって教育活動に取り組んでいることがよく伝わった。 ・与えられたものの中で工夫をしていてもらいたい。 ・今年度は特別な事情が多すぎました。そんな中でもできる限りの取組をしていたと思う。 ・「屋根のない学校」は先代校長からも伺っています。引き継がれていることに安心します。 ・シトラスリボンの今後の活躍場に期待します。 ・これまで積極的に進めてきた地域の方との活動ができない状況ですが、今後も地域と連携した教育活動が進められることを期待する。 ・施設、設備面は物理的にどうにもならない点があるが、工夫で十分補っている。今年度は地域との交流が制限されたが、長年の実績は簡単には壊されないと確信する。 ・地域としては防災活動において大変お世話になっている。六中の「まちなか点検」は、地域にとって大変心強く思う。 ・すべての項目において評価は適切です。 ・今年度は実施できなかったことも多かったと思う。次年度以降どのような形で実施していけるか地域の中にある施設として一緒に考えていきたいと思う。 ・HPの更新情報をトップページに掲載することで、情報発信力が高まると感じる。 ・今後は学校もCS化していくと思うので、地域とお互いの情報交換はしていってほしい。 ・地域の企業などにもSDGsに取り組んでいるところがあると思うので、そことも協働で
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	3:保護者学校評価アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が80%以上	3:			B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	2:保護者学校評価アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が60%以上	2:			C	1	
		駅前の花壇整備、まちなか点検、学校防災訓練等の地域と連携した教育実践を実施する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施できなかった。	4	1:保護者学校評価アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が60%未満	1:			D	0	
											アンケート回答数(率) 生徒授業アンケート341/362(約94%) 生徒生活アンケート350/362(約97%) 生徒学校評価342/362(約94%) 保護者学校評価314/362(約87%)

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である　B:自己評価はおおむね適切である　C:自己評価は適切ではない　D:評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す